

# 研究所だよい

(発行) 土佐清水市教育研究所

二〇〇八年七月二日

第二七〇号

問い合わせ(八二) 三〇一六

## こと言の重さ・・・

その四

大学を卒業し、清水に帰ってきた私は、高校の時間講師となり、女子バスケット部のコーチをする。ことにになりました。この時は、中学・高校の頃の自分のことなど忘れ、驕りたかぶったコーチになっ  
ていました。指導中に私は「コイツのところはパス」と言っていました。その子の表情が一瞬にして曇ってしまいました、そこで私はハッと気づき「自分は、なんて高飛車なこと言ってしまったんだろうか」と反省し、その子にはあとで謝りました。それからからのチームは、少しずつよくなり、久しぶりに県総体で勝つことができました。その後、中学校教諭として採用になり、いろいろなことを勉強させてもらって、いろいろなことを勉強させ、時代、教えてもいけないのに「何で、それはなにもできないがぞ！」など、自分の目線でしか物事を考えず、ひと言ひと言を発していたことを思い出した。すごく取ずかしく、

中学時代の顧問の先生と同じ、中学校教諭という立場で再会することになりました。その時の印象は、中学校時代のそれと寸分も変わらず、タイムスリッ  
プしてしまっただけの  
ではと、思ってくらいの  
でした。でもその



時、その先生は「おまえは他の誰よりも、はよから体育館へ来て、コツコツとがんばって練習しようたねや」、「オラの厳しい練習に三年間よう耐えた、教員しよう教  
え子の中でおまえだけや」という言葉をかけてくれ、うれしく思っ  
た反面、その言葉をあの中学時代にかけていくとしたら・・・  
と、思ったことでした。それから、  
ことあるごとく、その先生は私には優しくしてくれました。  
次号へ続く

(文責・山崎)

(追伸) 最近、よく「研究所だより読みようで」と声をかけていただきます。ありがとうございます。そのひと言が励みになっていきます。期待に応えられ  
えるかどうか不安ですが、がんばって書きたいと思っています。

## 教育相談講座だよい

心の教育センター主催の教育相談講座に参加させていただきました。Q1の活用、第二回講座は「構成的グループ」エンカウンターについてでした。Q1は何度か自分の学校でもやったことはあったのですが、分析のしかたについて、もう少し勉強をしておけばよかったです。後悔しています。この講座の内容等について追って掲載していきます。